

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371600939		
法人名	社会福祉法人高坂福祉会		
事業所名	グループホーム高坂苑		
所在地	名古屋市天白区高坂長196-1		
自己評価作成日	平成31年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝3-1010		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人の心身の機能に合わせ、家事や身の回りのことなどをできるだけ自力で行って頂いている。ほぼ毎日買い物や散歩に出かけたり、家事や年中行事を行ったりと活動的に生活することで身体機能の維持に努めている。また、買い物で食材を選んで支払をしたり、家事の段取りを考えたりすることで、認知機能の維持に努めている。散歩や外出、年中行事により季節を感じたり回想したりすることで、記憶障害や見当識障害の進行を遅らせるとともに、月に1度以上の遠出や外食などで、生活に変化を設けて、ホームでの日常生活を楽しんでいただけるよう努めている。ご家族には、日頃の様子を画像に載せたグループホーム通信、散歩や買い物、行事等に出かけた頻度をカレンダー式にした一覧表、バイタルサインのグラフ等を毎月送る事で、ホームでの生活の様子が伝わるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示しており、利用者が笑顔で生活して頂けるよう、ご家族、事業所スタッフ、さらに地域の方々との信頼関係を作るよう努めると共に利用者一人ひとりがその人らしさを保てるよう能力に合わせた個別ケアの実践を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校や保育園の行事、町内の祭りや大掃除等への参加をし、日々の散歩や買い物で挨拶を交わす等と共に開かれた事業所を目指しグループホームの行事には近隣の方にも参加を促している。また近隣の方がボランティアとして日常生活の支援をして下さっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日利用者と散歩等で地域の人々と接することが認知症の方への理解につながり偏見等を取り除いていけると考え実践している。管理者がいきいき支援センター主催の認知症の人の家族教室で講師を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、活動内容と予定を報告し、意見交換することでサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にいきいき支援センター職員に毎回出席を依頼し、会議内で事業所の活動報告や地域の状況等の情報交換を行っている。またいきいき支援センター主催のイベントに参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠については門扉のみ行っており、玄関ドアには施錠していない。防犯、安全上最低限と判断している。尚、法人には身体拘束委員会があり管理者は出席しグループホーム職員に内容を報告している。会議の時間を使い勉強会を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待防止に関するものやベーシックマナーやストレスマネジメントの講座があり、言葉遣いや利用者に対する態度等学んでいる。毎月の事業所内の勉強会で認知症の理解と対応について学ぶ機会を設けている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については法人内研修があり学んでいる。成年後見制度については利用されている利用者がおられる為、会議等を通じて学ぶ機会を設けている。		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	リスクも含めホームでの生活に納得していただけるよう丁寧に説明し同意して頂いている。また、改定があった際は個別で説明しご理解いただいた上で同意書を取っている。		
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱が設置してある。ご家族との信頼関係を作ることが大切であるため時間をかけて話を伺いご意見ご要望を引き出すよう努めている。		
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートに職員からの意見や提案も記入することにしており、必要な場合は会議にて検討している。法人にも意見箱が設置してあり意見については運営会議で検討している。		
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的には現場職員の意見を尊重した施設運営を心がけている。福利厚生の実施にも努めている。人事考課が給与に反映される等実効性の高いものになるよう法人全体で取り組んでいる。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には研修委員会があり毎月テーマを決め勉強会を開催している。また、役職や在籍期間に応じて階層別研修を実施している。ホーム内では月1回の勉強会と会議のそれぞれの時間を活用して、認知症に関する勉強の時間を設けている。		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム協議会に加盟している。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご自宅等まで出向き、嗜好、生活歴、趣味等をご本人、ご家族からお聞きした上で、ご本人のご希望等を傾聴する等、信頼関係を築けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、要望等を話しやすい雰囲気作りに努め、何でも話して頂けるよう努めている。更にご要望に対しては可能な限り実現できるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にご本人・ご家族からの要望をお聞きし、その時必要としていることを把握するよう努め、その結果、当施設での対応が困難と判断した場合や入所を急いだほうが良いと判断した場合は他施設や他サービスをご紹介することがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常全般において利用者と家事等協働しており、その時々でコミュニケーションを図るよう努めている。また、個別に部屋を訪問し、暮らしを把握し、関係を築いていく支援を行っている。モニタリングやカンファレンスになるべくご本人に参加していただき要望を聞けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホーム通信や外出等の状況を毎月お渡しし利用者の状態をお知らせすると共に、季節の衣替えの協力や行事への参加等、疎遠にならないよう、家族の生活に無理のない範囲で、グループホームへ来て頂ける機会を作るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前にお付き合いのあった方(知人・友人)の面会があったり、買い物は散歩を兼ねて近くの店へ行くようにしている。また行事に参加するよう呼びかけ、人や場所との関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で交流が出来るよう1階2階にフリースペースを設置、また食堂の席は利用者の状態を見ながら時々席替えをし利用者同士の関係が上手くいくよう努めている。居室にひとりで居ることが多くならないよう、部屋を行き来して関係が築けるよう支援している。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は法人内の特養へ行かれる方がほとんどなので、行事の際にご本人、ご家族とも特養でお会いする機会があれば様子を伺うことができるし相談や支援に応じることもできる。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者自身が希望や要望を発信することが少ないので、日常の会話や、利用者同士の会話に耳を傾けるようにしている。モニタリングやカンファレンスになるべくご本人に参加していただき要望を聞けるようにしている。			
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族から聴き取ることで生活歴の把握に努めている。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や申し送りノートで職員の気づきや利用者の状態を把握し情報を共有できるように努めている。			
26	(10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に担当者が決まっているので、担当者で計画作成担当者が中心になり計画の見直しを行う。可能な限り利用者にも参加していただいている。必要に応じて家族や主治医、看護師等にも意見を求める場合がある。			
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、個別の介護サービスチェック表、申し送りノートを活用し、必要に応じてカンファレンスを開いて見直しをしている。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の特養、デイサービス等と協力するなど柔軟に対応している。			

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29				○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校、保育園、幼稚園の行事に招かれたり、学区のお祭りへの参加、地元の商店街を利用することにより利用者への理解を深めて頂ける機会を設けるようにしている。また、地域のボランティアの方にもお手伝いをして頂いている。		
30	(11)			○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所された場合は原則として当施設の協力医院への変更をお願いしている。協力医療機関は徒歩5分程度の場所にあり、主治医からは往診の度に医学的な知識を教わる関係にある。		
31				○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回特養の看護師がグループホームに勤務して利用者の健康チェックをしている。その際、気になることがあれば相談しアドバイスをもらっている。隣接しているので緊急時に対応が可能になっている。		
32				○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関は総合病院の運営する診療所のため入院が必要になった際は主治医を通じて情報を提供してもらえるようになっている。また、入院中の情報は病院から診療所の主治医に入り、ホームに伝わるようになっている。		
33	(12)			○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は同法人の特養へ円滑に入所できるように努め、法人全体で支援する体制を整えている。尚、重度化したときの指針は入所契約時に書面にて説明をして同意を得ている。		
34				○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフローチャートを掲示したり、会議のなかで対応について周知することでその時慌てず対処できるように備えている。		
35	(13)			○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、運営推進会議の委員には元学区消防団長がいるのでアドバイスいただいている。隣接する特養が福祉避難所に指定されており、災害時は避難することになっている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助等のケアの際、他入所者には気づかれなような声掛けをし、利用者の自尊心を傷つけないように努めている。また居室に入る際は、在室時は必ずノックし、不在時は本人に了解を得るようにしてプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のため、意思を的確に伝えられない方もいるが、傾聴しどのような思いがあるのかを把握するよう努力している。自己決定できる方に対しては可能な限り本人の意思を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	極力臨機応変に対応するように努めている。食事、入浴等、ある程度時間と状況に合わせていただいている部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	偶数月には訪問理美容師によりカット、顔そり等してもらっている。なじみの美容室のある利用者は家族に協力してもらい行って頂く。日常の整容は一人で出来ない方には支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時食べ物の嗜好は聞き取り、苦手な食べ物を把握し代替食を用意する。利用者の希望を聞き職員と共に調理する食事づくりの日も設け家事への参加も促している。また、月に1回程度で外出に出かけ選ぶ楽しみや雰囲気を楽しんでいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を実施し肥満にならないよう主治医に相談しながら量は加減している。また、食事形態を利用者の状態に合わせた支援をしている。水分は一日に必要な摂取量を確保できるように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後口腔ケアを行っている。義歯洗浄剤の使用や歯ブラシの消毒等清潔を保つようになっている。更に週1回歯科衛生士が訪問して口腔ケアを実施し月1回は歯科医によって検診を行い必要時は治療をしている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		排泄パターンを把握するためにチェック表を活用し、適切な誘導・介助を行っている。そのうえで排泄の失敗が減ってきた場合には紙パンツから布パンツに戻す等自立に向けた支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		毎日乳製品を摂取したり、散歩、掃除等で身体を動かす機会を設けできるだけ自然排便を促すようにはしているが、困難な方には主治医の指示により下剤で調整している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている		出来るだけ希望に沿うように努めているが、時間帯は毎日午後からで、1日3人入浴している。清潔を保つよう、入浴の間隔が開かないようにしながら、希望に合わせて前後させている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		各居室、冷暖房や除加湿等で快適な室温を保ち快眠を促すよう努めている。午後は昼寝の声掛けをしたり、夜間は生活習慣に応じて22時頃まで起きていたり等、個人の希望に合わせている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		往診の度に受診報告書を作成し申し送ることで情報の共有をしている。処方薬についても受診報告書に薬剤情報提供書添えて回覧し共有している。薬は1回分ずつ小袋に仕分けし服薬介助している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		個々の身体能力により家事等行って頂き役割を持ってもらっている。季節ごとの外出や外食、日々の散歩等で外出の機会を増やし気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		散歩や買い物等はその日毎に希望を聞きながら支援している。個別に希望があった場合には家族の協力を得て希望に添えるよう調整をしている。外出の機会をできるだけ作りADL・QOLの維持、低下防止につなげている。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としては紛失のリスクを避けるため事務室預かりとしている。所持や支払いが可能な利用者に対しては買い物の際、自分で支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて事務室の電話を使用していただけるようコードレスホンに交換している。携帯電話を所持している利用者が2名おり、自ら電話をしている。使用法等聞かれた時には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはキッチンとカウンター越しに隣接しているので、炊事の音や食事の匂いを感じることができる。窓は全面の掃出し窓になっており、朝夕の明るさや天候を感じることができる。週1回生け花の日を設け季節ごとの花を飾っている。脱衣室・浴室は温度差ができないように調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の席を決めることで居場所として認識できるようにしている。空いているときは自由に使用して頂いている。それ以外にもソファを設置してありいつでも利用者同士くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、居室を生活空間として居心地のよい場所にしていきたい旨をご家族にお伝えし、使い慣れたものを持ち込んでいただいたり、嗜好に合わせた空間づくりにご協力いただいている。個々に好きなものを飾られ楽しんでおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の棚には収納場所をわかりやすくするよう表示し、利用者がキッチン収納を把握できるようにしている。居室の表示は利用者の認識力に合わせて表示を替え、自力で行き来できるようにしている。階段は遮らないかわりに赤いテープを貼って段差を認識しやすくしている。		